



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

茨城県支部

# 日赤茨城

2017.11

Vol. 188

Red Cross Ibaraki

回覧



リーダーシップ・トレーニング・センター 県内の各地域の児童・生徒が参加

## 未来を担う子どもたちの育成に取り組んでいます



着衣泳 砂沼サンビーチ（下妻市）で22組44人の親子が水の事故への対処法を学習

日本赤十字社は、未来を担う子どもたちを対象に、人のいのちと健康を大切にし、「思いやり」の心を育む事業を行っています。

7月9日には水の事故の対処法を学ぶ「親子で着衣泳」を、また、夏休みの期間中は、県内の小・中学生・高校生を対象に、集団生活や活動体験等を通じてリーダーの育成を目的にした、「青少年赤十字・リーダーシップ・トレーニング・センター」(研修会)を開催しました。

これからも、子どもたちに「いのちの大切さ」を伝え、自ら「気づき、考え、実行する」ことができる青少年の育成に努めてまいります。

# CROSS TALK

クロストーク

## 日赤

青少年赤十字(Junior Red Cross (JRC))とは?

児童・生徒が赤十字の精神に基づき、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的とした事業。

出席者

**山井 久美 先生**

● 県立水戸桜ノ牧高等学校 JRC部顧問

**丸山 香南 さん**

● 県立竹園高等学校 2年

**宮久保 花奈 さん**

● 県立水戸桜ノ牧高等学校 2年

宮久保 花奈 さん



## 日頃の赤十字活動への取り組み

**宮久保** 募金活動のほか、今は一ヶ月に一回、水戸地区の各学校が献血の協力呼びかけなどに参加しています。

**丸山** 私も募金活動や献血推進

# 青少年赤十字北関東三県支部 海外派遣事業

## シンガポール派遣事業に参加して

赤十字の行う国際開発・救援事業の目的や意義、その国に暮らす人々の生活など、広く世界の様子を理解するため、海外派遣事業を行っています。今回はシンガポール派遣事業に参加した高校生2名(体験談3名)と指導にあたった先生にお話を伺いました。

活動を行っています。具体的には、クリスマス時期の「クリスマス献血キャンペーン」で、お菓子を配りながら献血の協力呼びかけをしたり、災害があった時には災害に関する募金を集め、時には他校のJRC部のメンバーとも協力をして集めたりしています。

## シンガポール派遣事業への参加のきっかけ

**宮久保** 私は実際にシンガポール派遣に参加した先輩がいて、話を聞かせてもらいました。写真などを見せてもらううちに、「行きたい」という気持ちが高まり、赤十字にも役に立てることがわかり、参加してみたいと思いました。

**山井** 他校の生徒たちを15人連れて行くので不安な部分はありましたが、事前に茨城県の研修会と3県集まったの研修会を踏まえて、子どもたちと一緒に引率する先生方、日赤のスタッフの方と交流し準備をしたので、特に大きな心配はなくなっていました。

## シンガポールで学んだこと・感想

**宮久保** 私が最も学んだことは、シンガポールで同じ年くらいの青少年赤十字に参加されている生徒との交流です。日本の生徒たちは緊張してしまい、初めて会話をするまでにしばらく時間がかかってしまったりするのですが、現地の生徒は積極的に話かけてくれたり、自分

たちで考えて椅子や机を動かしたりしていました。そういうところに青少年赤十字の「気づき、考え、実行する」の精神がすごく備わっていると感じました。

**丸山** 私も同じように現地の赤十字メンバーとの交流がすごく心に残っています。最初はやはり言葉の壁などもあるのかなと不安な面がありましたが、現地のメンバーたちはすごく積極性があって、言語の違いを感じさせないくらいお互いにコミュニケーションを図ることができました。自分自身においても自主性を学んだと思います。あのおとき得られたものを日本に持ち帰り、他のメンバーに伝え、今後の活動に生かしていくことが必要だと実感しました。

**山井** やはり向こうでのメンバーとの交流、学校訪問などです。2度ほど交流する機会がありましたが、最初は現地のメンバーの積極的な姿勢に圧倒されて

山井 久美 先生



いるような雰囲気がありました。しかし、日本の15人のメンバーも一生懸命、相手の話を理解しようと努めていました。時にはジェスチャーやスマートフォンなどを駆使しながらコミュニケーションをとる様子はさすが現代っ子といった感じでした。また、交流会では日本から事前に準備していたソーラン節や切り絵や歌を披露したのですが、現地のメンバーに大変喜んでいただきました。楽しげに交流を深める双方のメンバーの笑顔が印象に残っています。

## 日本に帰ってからの変化

**宮久保** 私はシンガポールに行って現地の人と話すのは初めての経験でした。英語を使うことが日本の日常ではなかなかないことから、もう少し学校にいるALTの先生などに積極的に話しかけてみようかなと思いました。

**丸山** 私は今まですごく心配性なところがあって、ものごとに挑戦する、取り組むといったことをためらってしまうことが多かったように思います。しかし、今回のシンガポール派遣を通じて、一步踏み出してみることがすごく大きいとわかりました。少し勇気を出していろいろなことに挑戦していくことで視野も広がることを学べたので、今後もそのことを意識して活動していきたいと思っています。

**山井** 赤十字以外にも海外の文化のことや、日本という国について見つめ直す機会になったと思います。



丸山 香南 さん

## 海外に向けたこれからの活動

**宮久保** 海外たすけあい募金に参加経験がありますが、今回海外に行ったことで、募金の使い道などもっと赤十字について知らなければいけないと思いました。

**丸山** 今回のシンガポール派遣を踏まえて自分たちの活動についてもう一度振り返り、赤十字についても学びつつ、海外の方にも自分から進んで情報を得ていきたいと思っています。

**山井** 現在世界各地では民族や宗教の違いから、対立や紛争が頻発しています。今回の派遣に参加し、異なる国同士の人々が草の根レベルで交流することは互いの違いを認め合い尊重し合う関係を築くための第一歩だと感じました。対立や紛争は互いを知らないがゆえの不信感から始まることがままあります。ですから、今回のようなお互いを知り、交流を深める場はとても大切であると感じました。

## 海外派遣事業体験談



● 県立日立第一高等学校  
関根 詩音 さん

血液バンクを見学した際、施設の壁に描かれた様々な色の絵や多くの展示物が印象的でした。献血に対する誤解や不安を持っている人がいると知り驚きました。両国共に献血の正しい知識を広め、理解を深めてもらえることが課題だと感じました。

私はリーダーを務めました。初めての海外、英語でのスピーチなど不安なこともありましたが参加メンバーや先生方のフォローのおかげで無事に務めることができました。大変良い経験をさせていただきありがとうございました。



● 常総学院高等学校  
深沢 久世 さん

私がシンガポールの派遣メンバーに選ばれたとき、大きな期待と少しの不安がありました。しかし、行ってみると発見が多く、すぐに緊張が解けました。そして外国のことを知り、自分がかに日本という国の常識にとらわれていたかに気づきました。

また、リーダーとしての振る舞いも学んだことの一つです。現地では一人一人が時間を守るとか、周りを見るとか、率先して仕事を行うことが求められました。そして、いつまでも今のままではいけないと思えるようになりました。

このような気持ちや新たな発見を忘れずに、今後の社会貢献に生かしていきたいと思っています。



● 坂東市立岩井中学校  
成島 駿 さん

僕は今回の事業を通し、様々な驚きからシンガポールの文化を学ぶことができました。例えば、シンガポール人のお互いの個性を認め合う姿勢です。それがよくわかったのは障害者施設です。ここには重い障害を持つ人たちがいました。その障害者の中にある宗教の信者の方がいました。しかし、障害のため、礼拝はできないのだそうです。それでも、そのスタッフは宗教に応じた対応をとっていました。これにはとても感銘を受けました。

現在、グローバル化が進み、様々な人たちのそれぞれの個性と関わる機会が増えていきます。この経験を糧に、外国人も含め自分の周りの個性を認め、助け合っていくような人間になりたいと思っています。

## 常備救護班等災害救護訓練を実施！

日本赤十字社は、自然災害などの緊急事態に、災害救護活動を実施しています。

6月24日、北茨城市民体育館にて、水戸・古河赤十字病院の医療チーム(救護班)の技能向上を目的として、大地震を想定して発災直後(急性期)の被災地において、地元の消防本部や赤十字ボランティアと連携したシミュレーション(実働訓練)を行いました。

今後も、円滑な救護活動が実施できるよう、当支部で災害救護訓練を開催するほか、日赤関東甲越ブロックで実施される訓練や茨城県主催の総合防災訓練等にも積極的に参加し、更なる救護体制の充実強化に努めてまいります。

### 医療救護訓練

医療チームが、多数傷病者へのトリアージ・治療などを行いました。

- 医療チーム2班  
(水戸赤十字病院1班、古河赤十字病院1班 ※血液センター職員含む)
- 構成内訳  
(医師2人、看護師6人、薬剤師1人、調整員5人)



医療チームによるトリアージ・治療

### 患者搬送等ボランティア派遣訓練

赤十字防災ボランティアによる患者搬送訓練を行いました。

- 赤十字防災ボランティア・リーダー 6人
- 赤十字防災ボランティア・地区リーダー 12人



防災ボランティアによる傷病者の搬送

### 非常食炊き出し訓練

赤十字ボランティアが、災害時の「食」の確保を支援できるよう、炊き出しを実施しました。

- 地域奉仕団2団  
(北茨城市赤十字奉仕団19人、高萩市赤十字奉仕団9人)



地域奉仕団による炊き出し

### 応急手当訓練

赤十字ボランティアが、専門知識や技術を活かして、傷病者への応急手当を行い、医療チームを支援しました。

- 特殊奉仕団1団  
(柔道整復師会奉仕団5人)



柔道整復師会奉仕団による骨折の手当て

## かすみがうら市赤十字奉仕団 結成！

8月25日、かすみがうら市に地域赤十字奉仕団(団員 183人)が新たに結成されました。

当日は、かすみがうら市「あじさい館」において、坪井透市長ご出席のもと、総会および結団式を行い、奉仕団結成宣言、奉仕団旗の授与などが行われました。

今後は、災害時における非常食炊き出し、福祉活動など、地域における積極的な活動が期待されています。



茨城県支部 深谷事務局長から  
奉仕団 斉藤委員長へ

## 地域赤十字奉仕団とは？

地域赤十字奉仕団は、各市町村単位で組織されるボランティアグループです。

当県では、42団、約8,000人が地域赤十字奉仕団員として、災害時における非常食炊き出しや地域イベントにおける赤十字PR、防災、高齢者の生活支援など、非常に多岐にわたる活動を行っています。



平成27年9月 関東・東北豪雨に  
おける被災地での炊き出し  
(笠間市赤十字奉仕団)



自治会の方を対象とした、災害時に  
役立つ技術の紹介  
(東海村赤十字奉仕団)

## 合い言葉は「浮いて待て」!! 当支部で初の親子で着衣泳を実施!

7月9日、県内の児童44人(親子22組)を対象に、「親子で着衣泳」を実施しました。

この講習は、着衣状態で起きた水の事故を防ぐために、着衣泳を親子で体験し、家庭における水難事故防止の一助として、また、児童がいのちの尊さについて考えるきっかけとなることを願い企画したものです。

参加者からは、「楽しく参加できました。『浮いて待て』の大切さを再認識しました」などの感想がありました。



## 青少年赤十字防災教育プログラム指導者養成研修会を開催

青少年が自然災害に対する正しい知識を理解し、自らのいのちを守る方法を学び、また、いのちの大切さを感じ取る力を育むことができるように、県内の小中高校の教員を対象に、防災教育推進の中核となる指導者を養成する研修会を開催しました。

日本赤十字社が製作した青少年赤十字防災教育プログラム教材テキスト「まもるいのち ひろめるぼうさい」を、実際に活用した教員がその実践例を報告し、授業での活用を呼びかけました。その他、災害時に避難所での生活などで求められる「コミュニケーション能力」や「想像力」を養うグループワークなども実施しました。

参加者からは、「防災教育の指導に漠然とした難しさを感じていましたが、この資料を吟味し、活用してみたいと思いました」「一回だけでなく、何回も何回もやって覚える(学ぶ)ということで、これから実践していく方向がみえてきました。防災訓練で、ぜひ活用していきたいと思います」などの感想がありました。



グループワークを通じたコミュニケーション促進



授業で使える教材の活用事例の紹介

## 美味しい和菓子で、社会貢献

6月16日より、館最中本舗（有）湖月庵（茨城県筑西市稲荷町丙202-13）が製造販売するチョコレート菓子「きぬのまゆ玉」（9個詰983円（税込））の売上の一部が、日本赤十字社茨城県支部の災害救護などの活動を支援する取り組みが本県で初めて開始されました。

同菓子は、4月21日～5月14日に開催された『第27回全国菓子大博覧会・三重』において、農林水産大臣賞（和菓子部門）を受賞。絹川とも呼ばれた鬼怒川の流れにちなみ、絹のような口どけでしっとりとした黄味館をホワイトチョコで包み、まるやかな味に仕上げ、黄味館には、茨城県産『奥久慈卵』が使われています。

館最中本舗（有）湖月庵 上野貴則代表取締役社長は、この度の取り組みに対し「長期間にわたり、自社製品を活かした社会貢献ができると考えています。」とコメントしています。



【ご購入のお問い合わせは】

館最中本舗 湖月庵

電話 0296-22-2513

## 小中学生病院体験ツアーを開催しました



7月29日、当院にて小中学生病院体験ツアーを開催しました。

このツアーは、県央地域定住自立圏（水戸市を含む9市町村）による事業の一環として、小中学生が医療の仕事に興味・関心を持つきっかけとなるよう今年初めて開催されたものです。

当日は小学5年生～中学3年生28人が参加し、午前は施設見学を、午後は一次救命処置と縫合体験を行いました。縫合体験では医師の指導の下、真剣な眼差しで取り組んでいました。

参加者からは「病院の仕事を楽しく学ぶことができよかった。将来自分も医師になりたいと思った。」との感想がありました。

今回の体験を通じて、医療への理解を深め今後の進路を考える機会になればと思います。

## 大人気!今年もガルパン 献血キャンペーン!



例年、夏と冬の年2回、大洗町が舞台のアニメ「ガールズ&パンツァー」とコラボした献血キャンペーンを実施しています。限定の記念品が好評で、県内だけでなく全国から多くのアニメファンが来場され、協力者数が増加しています。今年の夏は協力者数が800名を越え、過去最高となりました。今年の冬も12月～1月の期間に、県内の献血ルーム、献血バス（街頭献血会場のみ）で400mL献血協力者を対象に実施予定です。詳細は血液センターホームページでご確認ください。みなさんのご協力をお待ちしています。

## かかりつけ医との地域連携をしています

**「かかりつけ医」からの紹介状をご持参ください。**

「選定療養費」2,500円は不要!

初診でも予約可!  
(料により異なります)

専門的な治療が可能!

「紹介状」持参の方は「紹介受付」までお申し出ください。電話番号がご案内させていただきます。

「かかりつけ医」からの紹介状を持参して古河赤十字病院を受診した時のメリット!

- ☆ 初診時の「選定療養費」2,500円が不要
- ☆ 初診でも予約が可能(料により異なります)とお知らせください
- ☆ 円滑な治療の対応が可能
- ☆ 検査・診断結果を「かかりつけ医」と連携し適切な医療の提供が可能

当院は、第2次救急医療機関、災害拠点病院等の指定、地域医療支援病院の承認を受け、急性医療を中心とし、連携機能を果たすべき役割が国の方針で求められています。

専門性の高い医療を必要とする患者さんを一人でも多く治療させていただくために、当院受診を希望の方は、診療所（かかりつけ医）に相談され、紹介状をご持参の上、受診していただきますようお願い致します。紹介状を持参した場合、初診時の選定療養費2,500円（2017年10月1日現在）の請求はございません。

## 甚平に着替えて花火を行いました!



「うわあー!!!」

歓声をあげる子どもたち。

甚平に着替え花火!子どもたちは、いつもと違う格好にわくわくといった様子。

この夏は、天候不順で晴れの日が少なく、花火の日も1度延期になりました。当日も朝から雨が降っていて花火ができるか心配でしたが、お昼過ぎには雨もやみ無事に行うことができました。

花火を手に持ち、はしゃぐ子や怖がる子などさまざま。

子どもたちの笑顔は、色とりどりの花火のようにキラキラと輝いていました。

過ぎゆく夏を惜しみながら、花火を楽しみました。

## 赤十字講習カレンダー

### 赤十字幼児安全法講習開催のお知らせ

日本赤十字社は、子どもに起こりやすい事故の防止と手当の方法、家庭内での看病の方法や災害時の乳幼児支援などに役立つ知識や技術を習得できる赤十字幼児安全法講習を開催しています。

お申込みは、インターネットで簡単にお手続きができます。皆さまの受講を心からお待ちしております。

日赤茨城 幼児安全法

検索

### 支援員養成講習(3日間のコース)

上記内容を3日間でしっかり学べるコースとなっており、全過程修了者に「受講証」、検定試験合格者には「赤十字幼児安全法支援員認定証」が交付されます。

#### 【日程】

日時:平成30年1月21日(日)・28日(日)・2月4日(日)  
9:30~16:00

場所:日本赤十字社茨城県支部

受講条件:年齢15歳以上

定員:30人

受講費:1,800円

### 短期講習(1日間のコース)

子どもに対する一次救命処置が学べるコースとなっており、子どもに対する心肺蘇生とAEDの取り扱い方、気道異物の除去を学べます。

#### 【日程】

日時:平成29年12月14日(木) 10:00~12:00

場所:わんぱく・みと

受講条件:なし

定員:30人

受講費:206円



## 社会貢献(CSR)活動 ~赤十字支援型自動販売機の設置~

「赤十字支援型自動販売機」の設置が、県内各地で進んでいます。現在、設置先を募集しています。詳しくは、当支部 組織振興課までお問い合わせください。

### 赤十字支援型自動販売機の特徴

- 売り上げの一部が寄付金となる。
- 設置することで、お店や企業の社会貢献活動をアピールできる。

県内設置台数

約90台



## 読者の声

福ヶ崎市 女性

私は今まで46回の献血をしました。注射がきらいですが、社会のために少しでも役にたてばと思い続けています。できれば69才までさせて頂きたいと思っています。

筑西市 女性

献血車を時々見ますが、子連れの為なかなか行きにくく、最近献血ができてないのですが、今度見た時は子どもにも説明し、ぜひ協力したいと思います。

## ● 読者アンケート&プレゼント

アンケートでご意見をお聞かせください。

### 応募者の中から、抽選で赤十字グッズをプレゼント!!

\*当選者は発送をもって代えさせていただきます。

#### 応募方法

以下の項目を明記のうえ、郵送またはFAXにて応募ください。抽選で赤十字グッズをプレゼントいたします。いただいたご意見は、日赤茨城の紙面上に掲載させていただくこともありますので、予めご了解願います。

- ①お名前(匿名ご希望の場合はその旨をご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
- ④年齢 ⑤日赤茨城を手に入れた場所
- ⑥日赤茨城へのご意見・ご感想・扱ってほしいテーマなど

#### 応募先

郵送/〒310-0914 水戸市小吹町2551  
日本赤十字社茨城県支部  
日赤茨城プレゼント係  
FAX/029-241-4714  
応募締切/平成30年1月31日

## 日本赤十字社茨城県支部への寄付にご協力を

日本赤十字社の活動は、皆さまからの寄付によって支えられています。ご協力いただいた場合は、税制上の優遇措置が適用となります。詳しくは、当支部 組織振興課まで(電話 029-241-4516)

#### 〈ご協力方法〉

- 日本赤十字社茨城県支部へのご持参
- お近くの市町村社会福祉課(赤十字窓口)へのご持参
- お振込(常陽銀行・郵便局)
- 口座振替やクレジットカードからのご寄付
- 遺贈
- チャリティボックスの設置
- 赤十字支援型自動販売機の設置 など

